

小林恭子の ロンドン発 グローバル随想

第5回

居場所を探すヘンリー王子



イラスト・題字：長峯亜里

兄とは正反対「やんちゃな弟」

エリザベス英女王の孫にあたるウィリアム王子とヘンリー王子(通称「ハリー」)との不仲説が、報道されるようになった。

ウィリアムとハリーといえは、1997年に交通事故で亡くなった母親ダイアナ妃が思い浮かぶ。当時ウィリアムは15歳、ハリーは12歳。2人は父親チャールズ皇太子とともに互いを支えながら生きてきた。

兄と弟は正反対の性格であると評されてきた。「次の次の国王」となるウィリアムは堅実・真面目だが、ハリーは「やんちゃな弟」だ。パーティでナチスの扮装をしてひんしゅくを買ったり、素っ裸で女性と遊ぶ様子を撮影・公開されたりなど、ハリーの奔放さには眉がひそめられたが、陸軍では「特別扱いされたくない」と発言して積極的に軍事経験を積み、若い男性たちから「ハリーは俺たちの仲間だ」と目されるようになった。羽目を外しても、「ハリーだからなあ」と失笑されてすんでしまう。

アフリカに長期居住の憶測も

ハリー王子の腰が落ち着いてきたのは、米女優でアフリカ系の血を引くメーガン・マークル

さんと恋に落ち、昨年5月、結婚してからだ。「サセックス公爵家」の誕生である。ウィンザー城での結婚式には著名人が続々と招待され、ハリウッド映画のようにきらびやかなイベントとなった。5月6日には、第一子となるアーチャー・ハリソンちゃんが無事誕生した。

幸せ最高潮の中に、若干の暗雲も見える。足を引っ張るのが、メーガン妃の父親や再婚相手の子どもたちによるメーガン批判だ。「やらせ写真を撮影させた」として英メディアから攻撃された父親は、式への出席を取りやめた。その後、「娘と連絡が取れない」と英国のテレビに出演して苦情を述べた。また、メーガン妃がアフリカ系であることや王室の様々なしきたりに慣れていないことが、人種差別主義者や伝統を重んじる右派勢力によるネット上の攻撃対象となった。非常に残念な事態である。

最近になって浮上してきたのが、ウィリアム王子の妻キャサリン妃とメーガン妃の確執説だ。キャサリン妃はメーガン妃と同年の37歳。メーガン妃登場前は、王室のファッション・アイコンと言えばエリザベス女王に次ぐのがキャサリン妃だった。英国のメディアが2人をライバル視したくなる気持ちは理解できる。その方が「話が面白い」のだ。しかし、実際にはどう